

家計貯蓄ランキングと大阪市

写真は日経 12 日朝刊「関西経済」。関心あるテーマなので抜粋して紹介する。世の中の家庭は貯金や借金がいくらからいあるのか。老後の不安も相まって多くの人の気になる話題だ。総務省の家計調査（貯蓄・負債編）から世帯ごとに貯金や借金の額を年収と比べてみると、貯金・借金が多い地域と少ない地域でいずれも 3 倍近い開きがある。住民の気質や地域の環境が影響しているようだ。

まず貯蓄を取り上げる。家計調査によると、世帯主が勤めに出ている 2 人以上世帯の 2021 年の貯蓄額は全国平均で 1454 万円。平均年収（749 万円）の 1.94 倍だ。世帯主が社長や取締役など会社役員の家計は含まない。年収比を県庁所在地別に見てみると平均を上回ったのは 16 都市で、最高は京都市の 3.10 倍だった。

京都市で多い理由について、日本 FP 協会の京都支部長も務めるファイナンシャルプランナーの常住良樹氏は「老舗企業の多さ」に注目する。任天堂やロームなど歴史の長い大手企業が多く、帝国データバンクの都道府県別調査によると京都府は業歴 100 年以上の企業の割合が 5.2% と最も高い。日本の中心都市として長く繁栄した歴史の遺産を受け継いでいると言えそうだ。

2 位は奈良市で 2.53 倍だった。奈良県を地盤とする南都銀行系のシンクタンク、南都経済研究所の秋山利隆・主任研究員は「家計の状況を頭に入れて、着実に貯蓄をする堅実な人が多い」ことが要因とみる。食料や住宅の物価が比較的安い一方、大阪など県外の大手・中堅企業で働いて一定の収入を得ていることも影響している。

年収では 937 万円と東京都区部に続いて全国 2 位だが、年収比の貯蓄額割合では 19 位のさいたま市は負債額が最も多い。負債のうち住宅・土地が 97% を占めており、住宅取得のために貯蓄が抑えられている。上位は三大都市圏や周辺地域が占めたが、大阪市は全体的に物価が高い一方、年収が 670 万円と比較的低く、貯蓄の年収比は 1.18 倍と 47 都市で最も低かった。次いで低い那覇市も年収が 579 万円と最も少なかった。

この都市ランキングに注目したのは、じつは大阪市が最も低い順位であったからだ。大阪市が大都市のなかで所得が低だけでなく、貯蓄の年収比が県庁所在地都市で全国最低であり、その背景を知りたくなった。都心居住が進んできたが、所得水準や貯蓄に影響はないのだろうか。6 日レポートで紹介した「大阪府の教育費全国一」は、貯蓄の年収比に影響しているのか。大阪市の経済・社会・財政構造について調べていきたい。

順位	県庁所在地	貯蓄の 年収比	貯蓄額 2210万円
1	京都	3.10倍	2210万円
2	奈良	2.53	2023
3	大津	2.43	1909
4	岐阜	2.43	1943
5	東京都区部	2.43	2372
6	千葉	2.41	1913
7	名古屋	2.27	1815
8	徳島	2.24	1688
9	津	2.15	1598
10	前橋	2.12	1682
11	高松	2.09	1372
12	和歌山	2.08	1308
13	山口	2.07	1403
14	福井	2.02	1387
15	神戸	1.96	1559
16	横浜	1.96	1642
全国平均		1.94	1454
17	静岡	1.94	1365
18	富山	1.93	1482
19	さいたま	1.88	1758
20	鳥取	1.80	1233
21	新潟	1.79	1282
22	福島	1.77	1247
23	熊本	1.76	1251
24	金沢	1.70	1347
25	青森	1.62	1110
26	福岡	1.62	1284
27	松山	1.61	1096
28	仙台	1.60	1121
29	秋田	1.59	1049
30	宇都宮	1.59	1154
31	松江	1.59	1197
32	札幌	1.56	987
33	鹿児島	1.56	990
34	広島	1.55	1106
35	岡山	1.53	1116
36	山形	1.52	1117
37	佐賀	1.51	929
38	水戸	1.44	1056
39	盛岡	1.41	991
40	長崎	1.40	844
41	甲府	1.38	959
42	宮崎	1.36	904
43	長野	1.33	994
44	高知	1.33	969
45	大分	1.31	936
46	那覇	1.30	752
47	大阪	1.18	792

(注)総務省「家計調査(貯蓄・負債編)」から2人以上の新労働世帯で集計。同数値は小数第3位以下で順位付け

(2022年10月16日)